

令和3年度小中一貫教育推進計画書

中学校区名	安浦中学校区
代表所属校 氏名(校長)	呉市立安浦小学校 校長 山崎 義之

1 目指す児童生徒像

確かな学力を身に付け、心豊かにたくましく生きる児童生徒

2 育成を目指す資質・能力(具体の姿)

資質・能力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	感謝・貢献
後期	各教科等に関する個別の知識や技能などを確実に身に付けている。	目的に応じて、多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、論理のすすめ方や表現の仕方などを工夫して、効果的に表現することができる。	課題解決のために、対象に対して自ら働きかけ、進んで挑戦することができる。	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、郷土の発展に貢献することができる。
中期		目的に応じて、複数の事柄や資料などを関連付け、整理したり再構成したりして、適切に表現することができる。	課題解決のための過程において、対象に対して積極的に働きかけ、進んで挑戦することができる。	郷土の伝統や文化を大切に、地域社会の一員として貢献を意識して活動に参画することができる。
前期		目的をもって、複数の事柄や資料などについて自分で視点を持ち、比較分類、関連付けてまとめて表現することができる。	目的を明確にして、課題の解決に向けて、見通しをもって計画的に挑戦することができる。	地域のよさを理解し、感謝する心をもって地域と関わる活動に参加することができる。

3 研究主題と設定理由

(1) 研究主題

主体的・対話的に深く学びながら、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり
～「単元構成逆向き設計シート」を活用した単元づくりと学び合いを通して～

(2) 設定理由

本中学校区では、「逆向き設計」論を取り入れ、パフォーマンス課題を位置づけた単元づくりに取り組んできた。平成28年度に安浦中学校で開発・研究した内容を、平成29年度から本中学校区内の全校にも広げ、小中全教職員で共通の研究テーマに3年間取り組んできた。そのことにより、小中一貫した系統的な指導の在り方や、ゴールから逆算した単元づくりについて理解を深めるとともに、研究の方向性をそろえて授業実践を行うことができた。また、令和元年度から部会を「授業改善部会」と「『心と体』育成部会」の2部会とし、研究を進めてきた。

「授業改善部会」の成果としては、安浦中学校区での「考える授業」とは何かについて明らかにした上で授業改善を行った結果、基礎学力の定着及び活用力の向上が見られた。「『心と体』育成部会」の成果としては、「学びのすすめ」ダイジェスト版を作成したり、小中合同あいさつ運動などの児童生徒の交流を実施したりすることを通して、児童生徒の自尊感情の高まりや小学生の意識の高まりが見られた。

令和2年度は、新型コロナウイルス流行の影響で、全国学力・学習状況調査は実施されなかったため、小学校では標準学力テストを、中学校では新学社の学力向上TSPを実施した。校内と全国との比較は次のとおりである。

小学校

国語	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A小 5年	- 0.9	- 1.1	- 6.7
B小 5年	- 6.9	- 9.1	- 7.4
A小 6年	+ 12.8	+ 10.6	+ 15.0
B小 6年	+ 1.6	+ 4.2	+ 9.5

算数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A小 5年	+ 7.9	+ 5.3	+ 6.8
B小 5年	- 11.5	- 6.8	- 18.9
A小 6年	+ 18.5	+ 11.4	+ 10.4
B小 6年	+ 7.1	+ 4.2	- 0.3

中学校

国語	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語 の特質に関すること
中学校1年	- 6	+ 1	- 2	- 2
中学校2年	- 1	+ 5	± 0	- 5

数学	数と式	図形	関数	活用
中学校1年	- 5		- 6	± 0
中学校2年	- 3	- 9	- 10	- 5

小学校では、各校、各領域で違いがみられるものの、国語科算数科ともに、「思考・判断・表現」に課題があると捉えられる。また、中学校国語科においては、「話すこと・聞くこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関すること」数学科においては、特に関数に課題が見られた。これらの課題は、課題発見・解決学習を取り入れた授業実践を積み重ねる中で、中長期的に改善していく必要がある。本中学校区で実践している「逆向き設計」は、これらの課題を解決する上で有効であると考えられるため、研究を継続する。また、「逆向き設計」の考え方を生かしながら、児童生徒が主体的・対話的に深く学ぶことができる学習過程はどうあるべきか、特に学び合いの場の工夫について研究を深めていきたい。

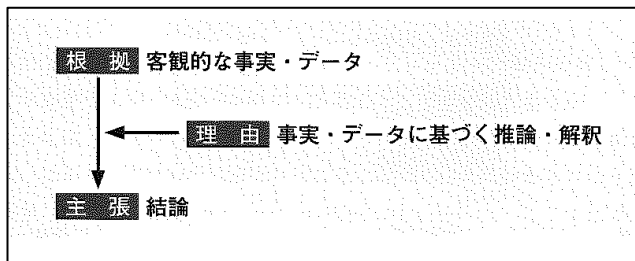
4 研究内容

- (1) 単元構成逆向き設計シートを活用した単元づくり【授業改善部会】【「心と体」育成部会】
 - ア 目指す姿(ゴール)の明確化
 - イ 質の高いパフォーマンス課題の開発
 - ウ 指導に生かすルーブリックの設定
 - エ 「課題発見・解決学習」を取り入れた単元構成の工夫(小中合同行事等、授業以外の場においても「逆向き設計」による計画・実践を試行)
- (2) 思考を深める学び合いのある授業づくり【授業改善部会】
 - ア 話し合いの視点を明確にしたペア学習や小グループ学習を取り入れる。
 - イ 1時間の授業の中に、本中学校区における「学び合い」の思考過程を位置づける。

安浦中学校区における「学び合い」(全教科共通の「思考過程」)

- ①理由や根拠に基づいた自分の考えをもつ。
- ②自分の考えと友達のを比較・分類・関連付けながら思考する。
- ③ペア学習やグループ学習において、①②で練った考えを広げたり深めたりする。

ウ 根拠を基に理由付け，筋道立てた表現をさせる。



三角ロジック (根拠・理由・主張の三点セット)

エ 教科等の本質に迫る発問を工夫する。

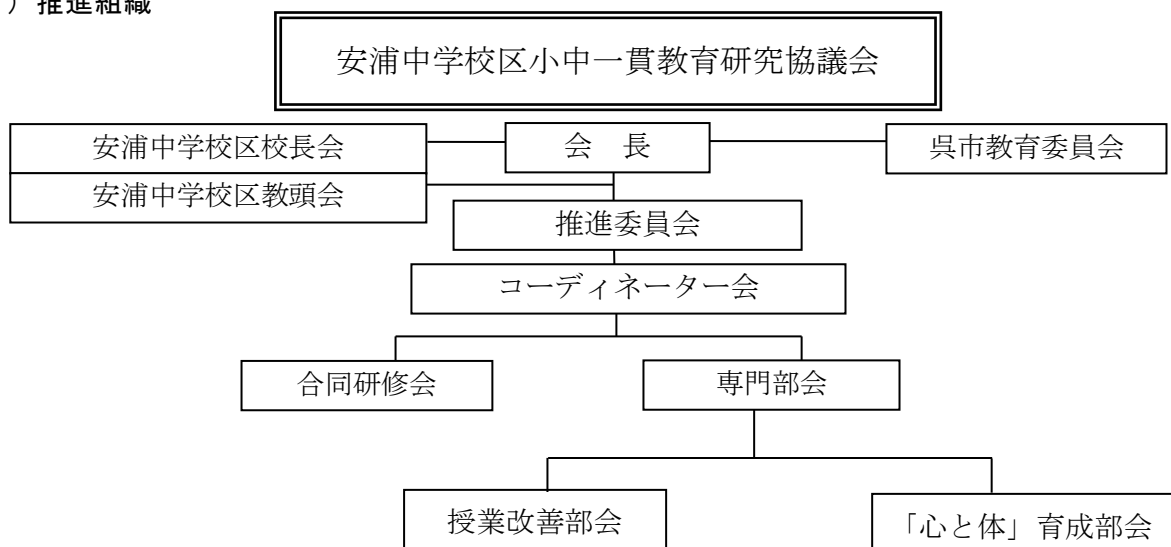
- 例・〇〇と△△の共通点・相違点がありますか。
- ・〇〇と△△をまとめると、どうなりますか。
 - ・〇〇と△△には、どんな関係がありますか。
 - ・つまり、どんなことがいえますか。

(3) 主体的・対話的に深く学ぶ基盤づくり【「心と体」育成部会】

- ア 「学びのすすめ」「パワーアップカード」による生活づくり
- イ 「体いきいきカード」による健康づくり
- ウ 体力・運動能力調査を生かした運動の日常化
- エ 「感謝・貢献」の資質・能力を育む学校行事・地域貢献活動及び生徒会・児童会活動

5 推進体制

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

- 専科教員の授業
- 理科，家庭科

6 見込まれる成果及び検証方法

(1) 見込まれる成果

【研究仮説】

「単元構成逆向き設計シート」を活用し、パフォーマンス課題を位置づけた単元づくりを行うとともに、視点を明確にして整理した自らの考えを広げ深める「学び合い」を取り入れた授業を行うことにより、児童生徒の主体的・対話的で深い学びを促し、思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

【見込まれる成果】

- 基礎学力の定着及び活用力の向上
- 学習規律、学習習慣（家庭学習等）、生活習慣のより一層の改善
- 自尊感情の高まりによる学習意欲の向上

(2) 検証方法

- 全国学力・学習状況調査等における本中学校区の正答率と広島県の正答率との比較
- パフォーマンス課題に対する児童生徒の記述内容等の分析（ループリックでB評価以上となった児童生徒の割合）
- 「学びのすすめ」を利用した取組とパワーアップカードによる振り返り
- 感謝・貢献に関する児童・生徒、教師へのアンケート調査の回答

7 推進計画

月 日	内 容
4月 8日	第1回推進委員会（一次案内検討）
4月14日	第1回合同研修会（係細案作成，一次案内最終検討）
5月20日	小中一貫教育コーディネーター会①
5月28日	第2回推進委員会
6月15日	小中一貫教育コーディネーター会②
6月21日	第3回推進委員会（二次案内検討，リーフレット検討）
6月24日	第2回合同研修会（安浦小授業，係細案審議，二次案内最終検討）
7月27日	小中一貫教育コーディネーター会③（係細案集約）
8月 4日	第4回推進委員会（二次案内最終検討，リーフレット最終検討）
8月 6日	第3回合同研修会（指導案検討，研究会運営要綱作成）
8月19日	小中一貫教育コーディネーター会④
8月27日	第5回推進委員会（研究経過報告検討）
9月 3日	推進委員会（予備）（必要に応じて開催）
9月14日	小中一貫教育コーディネーター会⑤
9月24日	第6回推進委員会，袋詰め作業
10月 5日	第4回合同研修会（全体会リハーサル，係最終打ち合わせ）
10月 7日	前日準備（必要な係のみ）
10月 8日	研究会
11月 2日	小中一貫教育コーディネーター会⑥
11月 8日	第7回推進委員会（研究会のまとめ）
3月17日	小中一貫教育コーディネーター会⑦
3月22日	第8回推進委員会（次年度に向けて）

8 その他

- 年2回の児童会・生徒会によるあいさつ運動
- 8月23日 第1回小中合同行事（清掃活動）
- 11月 2日 第2回小中合同行事（地域みちクリーン活動）
- 3月 小中一貫だよりの発行